



# 希望の鐘 *The Bell of Hope*



The Y's Men's Club of Kawagoe

〒350-0046 川越市菅原町7-16

tel : 049-226-2491 fax : 049-226-2304

c/o Kawagoe YMCA、7-16 Sugawara-cho、Kawagoe、Saitama 350-0046 Japan

## 川越ワイズメンズクラブ会報

No. 18-8

2号

発行 2017年2月14日

Chartered 1998

会長	吉野 勝三郎	クラブ会長主題	「東日本区大会を成功させよう！」
副会長	林 京二	国際会長主題	「Our Future Begins Today 私たちの未来は今日より始まる」
	松川 厚子		
会計	山崎 純子	アジア会長主題	「Respect Y's Movement ワイズ運動を尊重しよう」
書記	森下 千恵子	東日本区理事主題	「For the Future, Act Today 明日に向かって、今日動こう」
		関東東部部長主題	「組み合わせられ、結び合わされて、造り上げられてゆく」

2月

平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイによる福音書、5章9節)

Blessed are the peacemakers, for they will be called children of God.(Matthew5-9)

### 2016年1月の統計 (1月21日)

在籍 11名 出席者 6名 出席率 55%

### 2月例会のお知らせ

日時：2月25日(土) 午後5:00~7:00

場所：川越センター

いつもより、1時間遅いスタートです。外部からの卓話者のお話はありません。今年の6月2日、3日、4日の東日本区大会関連の準備と当日の内容を確認する会合とします。

ゲストは大歓迎です。

なお、前日24日(金)は実行委員会があります。

### 1月例会報告

吉野 勝三郎

今回の1月21日(土)の例会は、都合の悪い会員が多く、人数的には少ない例会でしたが、ゲストの身近な卓話に耳を傾けました。卓話者は、私の知人で川越在住のセールス・コピー・ライター、池田貴一(いけだ たかいち)さんでした。将来、私達の川越クラブに入会してもらえることを願ってのインビテーションでした。

彼は、元々、エンジニアでしたが、昨年、一念発起、ドイツ系の自動車部品会社を退職して、何年間か

勉強して来た、セールス・コピー・ライティングを新規起業しました。

—お客様の行動心理とは？

—マーケティングとは？

を中心に話してもらいました。

現代は、情報と言えば、電子情報で、電車の中の情景は、5年前とは全く様相を一変しています。それだけに、書類を介した情報交換は新鮮味があるそうです。具体的な例として、居酒屋のアドバイスをを行い、常連客に定期的に News Letter を送ることで、固定客が増え、更に一人当たりの売り上げ単価が伸びたそうです。当日の卓話で配布されたパンフレットには、

① 書くネタがない

② 書く時間がない

③ 構成とか作り方がうまくできない

そんな方には、常連様作りのニュースレター引き受けます、と記されています。どうぞ、そのような需要があったら、池田さんに声を掛けてあげてください。メールアドレスは、[nl@lodestone.tokyo](mailto:nl@lodestone.tokyo) です。



池田貴一氏を囲んで

## 第2回東西日本区交流会報告

利根川 恵子

去る2月4日(土)～5日(日)の2日間にわたり、日本区が東西に分かれて20年となることを記念して、標記の大会が、御殿場・東京YMCA東山荘で開催されました。川越からは、吉野、山本、吉田、松川、利根川の5名の参加でした。開催にあたっては、田中博之実行委員長を中心に、東西の実行委員がご協力くださり、370名という多くのワイズやメネットが、ワイズ運動の夢を語り、学び合い、楽しく交流することができました。

私たち、川越クラブの5名は、理事事務局ということもあり、前日の3日(金)から東山荘に入り、資料の袋詰めや集金など、それぞれに準備にいそしみました。また東日本区大会の案内を準備し、参加者に手渡しするという大きなミッションも果たすことができました。さらに、松川さんは、御殿場市の市の花である椿をメインに使った、ステージ用の生け花でのご奉仕となりました。ちなみに、2019年に東山荘を会場に「全国椿サミット」が開催されることとなっており、その御殿場市にふさわしい生け花でした。



3日の朝、12年ぶりの東西日本区交流会を祝うような晴天で、日の出から紅富士と早朝ウォークを楽しんだ方も多かったようです。お昼近くになると続々と参加者が到着し、午後1時頃には三島からのバスの到着で、久々の再会を喜び合う姿がそここで見受けられ、東西交流会の雰囲気は嫌が応にも高まりました。が、会計担当の吉田さんは集金、返金、領収書の発行と大忙しの時間となりました。

午後2時第1部開会。開会点鐘、ワイズソングに続いて、聖句の朗読と祈祷は所沢クラブの澁谷弘祐牧師がなされ、田中実行委員長、日本YMCA同盟・島田茂総主事、神崎清一・同盟次期総主事、東西日本区理事のあいさつがありました。その後、日本YMCA同盟理事の中道基夫ワイズから「YMCAのブランディングとワイズ」という講演があり、YMCAの存在がより強く認められるようにブランディングの必要性が語られました。

第1部のメインは交流プログラムです。LT/LDやエクステンションのような東西がお互いに学び合う会もあれば、音楽、ダンス、ウォーキングと楽しむセッションも用意され、東西のワイズが充実したひと時を過ごしました。しかし、我々理事キャビネットは、懇親会での東西理事対抗の出し物の練習をしなければならず、交流プログラムの時間を利用して、特訓と相成りました。出し物は、ゴスペルで「主我を愛す」と「慈しみ深き」を、1番は日本語で普通の讃美歌のように、2番を英語でゴスペル風に歌いました。沼津クラブの渡邊実帆ワイズを指導者としてお願いし、練

習を見ていた宇都宮東クラブの鈴木伊知郎ワイズが助っ人に飛び入りで加わり、と、俄かクワイヤでしたが、何とかステージを務めました。クラブ外からご参加いただいた、衣笠さん(埼玉)、渡邊実帆さん(沼津)、大澤さん、澁谷メネット(所沢)には心から感謝いたします。



2日目、9時からの日曜礼拝は山本さんが司会を務め、十勝クラブの池田正勝さんがマジックを交えた楽しい奨励をなさいました。献金の177,750円は、恐らく今までの献金額の中で最大であろうとの発表がありましたが、東日本大震災と熊本地震復興支援として日本YMCA同盟に寄付されました。その後、山田公平・前アジア・太平洋YMCA同盟総主事の講演があり、ワイズとYMCAの協働のモデルを東西日本区で示そうという意気込みを語られました。今後が期待されます。続いては東日本大震災・熊本地震の被災地レポートがあり、清水弘一さん(石巻広域)と亀浦正行さん(熊本にし)からそれぞれの状況の報告がありました。粘り強く、状況の変化に対応した支援活動を伺い、当事者のみなさまに深甚の敬意を表するとともに、同じワイズであることに改めて誇りを持ちました。

次は、DBC(千葉クラブと大阪高槻クラブ)、IBC(大阪泉北クラブと台北A-Listクラブ)の締結式で、参加者全員で締結を祝福し、末永い活発な交流を祈った次第です。

最後に東西日本区大会のアピール、田中実行委員長による閉会のことば、YMCAの歌で閉会点鐘となりました。

この大会のもう一つの収穫は、DBCの北九州クラブから安東邦明さんがいらしていたので、親しくお話ができたことでした。川越に訪問したいと言っていたき、その日が実現することを楽しみにしています。



理事として東日本区20周年記念事業の1つとしてとらえていた第2回東西日本区交流会が無事にしかも盛大に終了して、ホッとするとともに大きな喜びに満ちています。この余韻をそのまま東日本区大会につなげて、楽しく充実した大会とすることを誓います。



## 第20回東日本区大会情報

### <登録受付開始>

2017年2月8日から、いよいよ東日本区大会の登録受付が開始されました。募集案内もメンバーすべてに送付されましたので、これから続々と登録申し込みが到着すると思われます。まずはホストクラブから！です。川越クラブのみなさまの全員登録を一日も早く完了させてください。

### <ホームページ開設>

第20回東日本区大会のホームページが開設されました。登録方法、登録用紙、スケジュールなど、ホームページで見ることができます。アドレスは以下のとおりです。

<https://amarys-jtb.jp/web/ys-east20/index.html>

登録については、このホームページから申込書をダウンロードすることもできますし、インターネットでそのまま登録もできます。ご活用ください。

## YMCA 報告

### <所沢センター 児童クラブ開室>

2017年4月1日より、所沢センターにて児童クラブ「YMCAキッズクラブ」が開室されます。これは、

所沢市の放課後 の児童預かり事業として、待機児童解消すべく委託事業の1つとなっています。現時点で33名が入室予定です。

この児童クラブの運営は、埼玉YMCAのミッションに基づく働き であり、YMCA事業の活性化にも繋がります。今後は、放課後に所沢センターに集まる子ども達の数もさらに増えます。川越センター同様、皆さまのご理解とご協力をよろしく願います。

### <埼玉YMCAチャリティコンサート>

【出演】柳瀬 洋さん(クラリネット奏者) その他(ピアノ)

【日時】3月20日(月・祝)午後

【会場】カトリック所沢教会(埼玉YMCA所沢センターからすぐ 所沢市小手指町1-23-1)

\*詳細は、2月末にお知らせいたします。

## ===編集後記===

～ 川越 こんなところ～

わけ

### 蔵造りの街並みができた理由

今や世界中から観光客が訪れる川越蔵造りの街並み。その中でも土蔵造りの商家が連なる様は人気の中心といえるでしょう。小江戸と呼ばれるこのような川越の街並みは一体どのように作り上げられていったのでしょうか。少し歴史をひも解いてみました。

川越城下は、江戸時代から何回も火事の洗礼を受けていました。記録に残るものとしては、寛永15年(1638)、享保3年(1718)、文政12年(1829)に被害を受けています。松平氏も屋敷割の変更や街路を広げるなど火災対策を行っていたようです。これらの地割が現在の川越市街地の基本を形作っています。

明治26年(1893)3月17日午後8時頃に元町の養寿院付近から出火し、折からの強い北風と冬場の乾燥のために次々延焼し、城下17町を焼失しました。この火災で当時の町域の約1/3にあたる1300戸余りが全焼し、その中には「時の鐘」「第八十五国立銀行」「川越電信局」「蓮馨寺」などが含まれていました。その中で、「大沢家住宅(小松屋)」など蔵造りの建築物が焼け残ったことから、蔵造り建物の耐火性が認められて川越商人の多くが、その後蔵造り建物で再建を図ることになりました。明治30年ころまでに200棟を超える蔵造り建物が建設され、これが現在の街並みにつながっています。第八十五国立銀行(さいたまりそな銀行川越支店)もこの時洋館風の現在の建物になっているのです。

災害が原因とはいえ、街づくりの大きな転機となった火災は「川越大火」と呼ばれています。

### <参考文献>

川越市立博物館 博物館だより第8号 H5.3.31

S. M